

社会 - 6 (歴史的分野) 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる事例

【学習活動の概要】

1 単元名 近代の日本と世界		
2 単元の目標 (1) 近世から近代への転換の様子を考察し、自分の言葉で表現できるようにさせるとともに、我が国が第二次世界大戦の参戦に至った経緯を近代全体の流れを通して理解させる。 (2) 歴史的分野の学習課題を追究するための技能を育成し、時代の転換期を学ぶことに興味を持たせる。		
3 評価規準 【社会的事象への関心・意欲・態度】 ・日本の近代化の過程や大戦に至った経緯に関心を持って追究しようとしている。 【社会的な思考・判断・表現】 ・日本の近世から近代への転換の様子と第二次世界大戦に至った経緯を、世界の動きと関連させて考察している。 【資料活用の技能】 ・表やグラフ、写真、各種文書など様々な資料から、歴史的な事象に関わる意味や背景を読み取っている。 【社会的な事象についての知識・理解】 ・日本の近代化の様子や、二度の世界大戦の背景と経緯などを、時代の特色を考えることを通して理解している。		
4 教材 この時期の我が国は、欧米諸国のアジアへの進出など複雑な国際情勢の中で開国し、急速な近代化を進めて近代国家の仕組みを整え国力を高めていく。その後欧米諸国との関わりの中で東アジアへ進出し、やがて世界大戦の時代に突入していくこととなる。日本の近世から近代への転換の様子と第二次世界大戦に至った経緯を、「時代のまとめ」という振り返りの活動を通じて、世界の動きと関連させて考察させる。		
5 主な学習活動 (1)単元の展開 (全34時間)		
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次	市民革命、産業革命、欧米諸国の海外進出の互いの関連と日本への影響を理解する。(7)	・市民革命や産業革命が欧米諸国の海外進出の背景となり、ペリー来航にもつながったことを説明させる。
第二次	明治時代にはどのような点が新しくなったのか、明治政府はどのような国を目指していたのかを考えることを通して、明治時代の特色を考える。(7: 本時14/34)	・江戸時代の学習内容を整理し、それとの比較を通して明治時代の特色をワークシートにまとめさせる。
第三次	不平等条約の改正が成功した理由を、日本の近代化の過程を明らかにしながら考え、日本が目指していた近代国家の姿がどのようなものかを追究する。(7)	・個人のワークシート作業、小グループでの話し合い、学級での話し合いを通じて、学習課題を追究させる。
第四次	欧米諸国の様々な争いが世界大戦に発展していった経緯や、日本が世界の動きとどのように関わっていたかを理解する。(13)	・これまでに学んだ方法を生かし、日本が第二次世界大戦に至った経緯を明らかにさせる。
(2)本時の学習 目標 明治政府がどのような国を目指していたのか、それはなぜだったのかを、当時の国際的な背景も考慮しながら考える。さらに、明治時代の日本の特色を、江戸時代と比較しながら自分の言葉でまとめる。 本時の展開 明治政府の政策によって江戸時代から変化したことを確認し、ワークシートに書き出す。また、その政策が何を目標としたものかを個人で考える。 明治政府がどのような国を目指していたのかをグループで話し合い、さらにそれを学級全体で交流する。発表された各グループの内容から共通している内容を探し、なぜそのような国を目指していたのかを個人で考え、さらにそれを学級全体で交流する。 明治時代の前半はどのような時代だったのかを個人で考え、文章にまとめる。		

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

新しい中学校学習指導要領社会科歴史的分野の内容の(1)のうちでは、「学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせる」と示され、また、内容の取扱いの(6)では、「『新政府による改革の特色』については、欧米諸国とのかかわりや社会の近代化など、それ以前の時代との違いに着目して考えさせるようにすること」と示されている。

本指導事例のねらいは、「明治時代になってどのような点が変わったのだろうか」「明治政府はどのような国を目指していたのだろうか」という学習課題の追究を通して、生徒に明治時代の特色をとらえさせ、自らの言葉で文章にまとめられるようにすることである。そこで、個人で学習した内容を振り返る活動、グループで話し合う活動、学級全体で意見を交流する活動を設定した。また、ワークシートやホワイトボードシートを活用して、個人の考察の深まりやグループでの話し合い活動が進みやすくなるような工夫を行った。

【言語活動の充実の工夫】

言語活動を具体化するために

時代を大観し表現する活動によってその特色をとらえるなどの学習が有効に行われるためには、学校全体として言語活動の充実に取り組むことが大切である。本校では、学校研究の中で言語活動を7項目に分類している。各教科の目標を達成することを念頭に置き、社会科はこのうちの〈収集・整理〉〈解釈・説明〉〈討論・協同〉に重点を置くこととした。さらに、言語活動の目的・対象・方法・場面を教師が明確に認識し、教科特有の語彙を生徒が理解して活用できるよう学習指導に当たった。

ワークシートへの記述、話し合い活動の活性化のための工夫

設定する学習課題は、生徒が具体的に考えやすく、なおかつ各時代の特色をとらえる上で有効なものであることが重要である。そして、その課題を意識して単元全体の指導計画を作成し、単元の毎時の授業では、特に時代の特色に関わる部分へ目を向けさせていく。そうすることで、生徒の中に次第に時代の特色が認識・形成され、時代のまとめの学習の際に、記述や話し合い活動が行いやすくなると思われる。

さらに、「明治時代になってからの変化」「目指していた国の姿」「なぜそうした国を目指したのか」「明治時代はどんな時代だったと言えるか」というスモールステップで考えさせることによって、のまとめを書きやすくしている。の内容との内容を組み合わせるとへの解答になるようになっている。

ワークシートへの記述、話し合い活動の向上のための工夫

個人の活動と集団での学び合いを保障するために、前述のスモールステップに合わせて、授業形態を個人小グループと全体全体個人と変化させた。取り組みやすい課題は個人で行い、より高度な課題には小グループで取り組み、さらに学級全体で意見交流を行う。そして、最後のまとめについては、それまでワークシートに書かれた内容や仲間の発言を参考にして、再び個人で取り組む。こうした授業形態の工夫によって、記述や話し合いを苦手とする生徒も、同じテーマに沿って繰り返し考えることや、周囲の仲間から学ぶことができ、時代の特色をより確かにとらえることができるようになる。

ほかにも、毎時の授業でワークシートを回収し付箋をつけて返却する方法がある。付箋に記述内容の良い点や誤字の指摘、考察を深めるヒントなどを書くことで、生徒の思考や表現の質的な向上を図ることができる。そうした教師からの支援があれば、話し合いが苦手な生徒も勇気をもって発言することができ、グループや全体の話し合いの内容も向上し、それが個々の考察に反映されて、より深い理解につながるものと考えられる。

ワークシートの記入例

<p>明治時代になってからの変化</p> <ul style="list-style-type: none">身分制度が廃止され、四民平等になった。江戸時代にあった藩を廃止して、新たに県を置いた。江戸時代は武士が戦っていたが、身分制度の廃止により、徴兵令で集められた男子が兵となった。江戸時代は鎖国していたが、開国したことで、生活や文化の欧米化が進んだ。地租改正で政府に安定した収入が入るようになった。殖産興業で産業をさかんにした。憲法が制定され、選挙が行われた。議会在開かれた。あいまいだった外国との国境が決められた。	<p>目指していた国の姿</p> <ul style="list-style-type: none">富国強兵によって経済力・軍事力が強化された国。欧米諸国に対抗できる国。君主権が強い中央集権国家、立憲国家。	<p>目指した理由</p> <p>欧米諸国にアジアなどの国々が植民地にされていたので、日本も早く欧米諸国のような国にするため。不平等条約を改正するため。</p>	<p>どんな時代だったか</p> <p>開国して外国の影響を受け、欧米諸国に植民地にされたり戦争で負けたりしないで、不平等条約も改正できるように、欧米諸国に対抗できる国を目指して経済力と軍事力を高め、政治のしくみの近代化を図った時代。</p>
--	--	--	---

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類： , , , (分類番号はP5表参照)